

平成20年度（第52回）  
岩手県教育研究発表会発表資料

キャリア教育

# 小学校における キャリア教育の推進に関する研究

- 総合的な学習の時間を中心とした指導計画の作成と実践をとおして -

平成21年1月6日  
岩手県立総合教育センター  
長期研修生（1年）  
所属校 花巻市立浮田小学校  
藤原琢也

## 目 次

研究目的	1
研究の方向性	1
研究の内容と方法	1
1 内容と方法	1
2 授業実践の対象	1
研究結果の分析と考察	1
1 小学校におけるキャリア教育の推進に関する基本構想	1
(1) 小学校におけるキャリア教育の推進に関する基本的な考え方	1
(2) 総合的な学習の時間を中心としたキャリア教育の推進に関する基本的な考え方	2
(3) 総合的な学習の時間を中心とした指導計画の基本的な考え方	4
(4) 小学校におけるキャリア教育の推進に関する基本構想図	4
2 総合的な学習の時間を中心とした指導計画の作成	5
(1) 総合的な学習の時間を中心とした指導計画の作成までの手順について	5
(2) キャリア教育学習プログラムの作成について	5
(3) キャリア教育全体計画の作成について	5
(4) 指導計画試案の作成について	6
3 指導計画試案に基づいた実践	7
(1) 指導計画に基づいた授業実践 1 (摘果体験)	7
(2) 指導計画に基づいた授業実践 2 (絵付け体験)	10
4 小学校におけるキャリア教育の推進に関する研究のまとめ	13
(1) 成果	13
(2) 課題	13
研究のまとめ	14
1 研究のまとめ	14
2 今後の課題	14

[おわりに]

【引用文献】

【参考文献】

## 研究目的

キャリア教育では、社会的・職業的自立に向けて、望ましい職業観・勤労観及び職業に関する知識や技能を身に付けさせるとともに、自己の個性を理解させ、主体的に進路を選択する能力・態度を育てることをねらいとしている。小学校では、進路の選択・決定に直接つながるものではないが、自分のよさや得意分野に気付き、それを生かそうとする意欲・態度の育成や身の回りの仕事に対する関心・意欲の向上を意図した指導が求められている。また、指導を進めるに当たっては学級担任が教科・領域の内容を把握し、関連を意識した授業を行うことができるという小学校の利点を生かして取り組むことが大切である。

しかし、現状はキャリア教育が一部の教科や領域にとどまっていたり、内容の関連が図られていなかったりする傾向が見られる。その要因として、キャリア教育を職業に関する学習や体験ととらえているなど、キャリア教育に対するとらえ方が不十分であり、指導内容や指導計画が明確になっていないことが挙げられる。

このような状況を改善するためには、総合的な学習の時間並びに各教科・他領域で育てるキャリア教育の能力・態度を明らかにすることが必要である。また、相互の関連を明らかにした上で、総合的な学習の時間を中心としたキャリア教育の指導計画を作成し、実践をとおして修正・改善を図っていくことが必要である。

そこで、本研究は総合的な学習の時間を中心とした指導計画の作成及び実践をとおして、小学校におけるキャリア教育の推進に役立てようとするものである。

## 研究の方向性

小学校におけるキャリア教育の推進に資するため、総合的な学習の時間を中心とした指導計画を作成し提示する。

## 研究の内容と方法

### 1 内容と方法

- (1) 小学校におけるキャリア教育の推進に関する研究についての基本的な考え方の検討及び基本構想の立案（文献法）
- (2) 総合的な学習の時間を中心とした指導計画試案の作成（文献法）
- (3) キャリア教育全体計画の作成（文献法）
- (4) 総合的な学習の時間を中心とした指導計画の作成（文献法）
- (5) 総合的な学習の時間の指導計画に基づいた授業実践及び実践結果の分析と考察（授業実践）
- (6) 小学校におけるキャリア教育の推進に関する研究のまとめ

### 2 授業実践の対象

花巻市立浮田小学校 第5学年

## 研究結果の分析と考察

### 1 小学校におけるキャリア教育の推進に関する基本構想

- (1) 小学校におけるキャリア教育の推進に関する基本的な考え方

#### ア キャリア教育とは

「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書（2004）」（以下「キャ

リア教育報告書」と示す)では「キャリア教育」を「児童生徒一人一人のキャリア発達を支援し、それぞれにふさわしいキャリアを形成していくために必要な意欲・態度を育てる教育」としている。

また、「キャリア」を「個々人が生涯にわたって遂行する様々な立場や役割の連鎖及びその過程における自己と働くこととの関係付けや価値付けの累積」と定義している。

#### イ キャリア教育の現状と課題

中央教育審議会答申「初等中等教育と高等教育との接続の改善について(1999)」(以下「接続答申」と示す)にキャリア教育という言葉が示されてからこれまで、様々な取組がなされてきた。しかし、キャリア教育の理解や必要性の認識などが浸透していないことや内容の関連が図られた取組になっていないこと、基盤となる指導計画等の整備が十分ではないことなどの問題が指摘されている(三村, 2005・齊藤・菅原・佐藤, 2008)。

そこで、キャリア教育で育成する能力・態度を明示し、教科・領域等の関連が図られた指導計画を作成し、実践する。そのことをとおして、キャリア教育について理解や必要性の認識を深めていくことが必要と考える。

#### ウ 小学校においてキャリア教育を推進することの意義

「接続答申」では、小学校段階からキャリア教育を実施する必要があると述べている。しかし、小学校では、自分の生き方を考え、主体的に進路を選択し、生きていく力を育てる指導は組織的・系統的に行われてこなかった。そのため、中学校では三年間という短い間に生き方指導など進路指導の基礎的なところから始めなければならず、進学指導や就職指導にならざるを得ない状況があった(三村, 2005)。

「キャリア教育報告書」は、働くことに対する若者の意識や行動の変化と人間関係を築く力などの精神的・社会的自立が遅れる傾向にあることを指摘している。具体的な職業にかかわる知識や技能は、職業を目指してからでも身に付けられる。しかし、どんな職業でも必要とされる、時間や約束を守る、自分に与えられた責任を果たす、自分の意見を主体的に述べる、他の人とコミュニケーションをとるなどの基本的な生活能力は、自立性や社会性の基礎として小学校から積み上げていく必要がある。

一方、栃木県立総合教育センター(2007)は小学校でキャリア教育を推進する利点について、六年間かけて児童の成長をとらえ継続した支援を行うことができる、学級担任が各教科・道徳・特別活動・総合的な学習の時間の内容を把握し関連を意識して授業を行うことができる、日常生活場面を意識させた学習や自然体験や社会体験などの体験的な学習が積極的に実践されている、異学年の交流活動や保護者や地域住民の授業への協力などの多様な人とかかわりながら学ぶ機会がある、という四点を挙げている。これらのことから、小学校では児童の成長を継続的・総合的にとらえることができるため、キャリア教育の効果的な実施が期待できる。

以上の点から、小学校でキャリア教育を推進することは意義があると考えられる。

### (2) 総合的な学習の時間を中心としたキャリア教育の推進に関する基本的な考え方

#### ア キャリア教育で身に付ける能力・態度について

キャリア教育を推進するに当たって、各発達段階で身に付けることが期待される能力・態度を明らかにして取り組む必要がある。国立教育政策研究所生徒指導研究センター(2002)は、「職業観・勤労観を育む学習プログラムの枠組み(例)」(以下「枠組み(例)」と示す)を作成し、職業観・勤労観の形成の支えになると同時に、職業観・勤労観に支えられて発達する能

力・態度にはどのようなものがあるかという視点に立って各学校段階で育成することが期待される能力・態度（以下「進路発達にかかわる能力・態度」と示す）を示した（【資料1】）。

【資料1】職業観・勤労観を育む学習プログラムの枠組み（例） - 進路的（職業）発達にかかわる諸能力の育成の観点から -

ゴシック体は、「職業観・勤労観の育成」との関連が特に強いものを示す

職業的（進路）発達段階		小 学 校			中 高 学 校
		低 学 年	中 学 年	高 学 年	
職業的（進路）発達課題（小～高等学校段階）各発達段階において達成しておくべき課題を、進路・職業の選択能力及び将来の職業人として必要な資質の形成という側面からとらえたもの		進路の探索・選択にかかわる基盤形成の時期			
職業的（進路）発達にかかわる諸能力		職業（進路）発達を促すために育成することが期待される具体的な能力・態度			
領域	領域説明	能力説明			
人間関係形成能力	他者の個性を尊重し、自己の個性を伸ばしながら、人と人とのコミュニケーションを図り、協力して取り組む。	【自他の理解能力】 自己理解を深め、他者の多様な個性を理解し、互いに認め合うことを大切にして行動していく能力	・自分の好きなことや嫌なことをはっきり言う。 ・友達と仲良く遊び、助け合う。 ・お世話になった人などに感謝し親切にする。	・自分のよいところを見つける。 ・友達のよいところを認め、励まし合う。 ・自分の生活を支えている人に感謝する。	・自分の長所や欠点に気付き、自分らしさを発揮する。 ・話し合いなどに積極的に参加し、自分と異なる意見も理解しようとする。
		【コミュニケーション能力】 多様な集団・組織の中で、コミュニケーションや豊かな人間関係を築きながら、自己の成長を果たしていく能力	・あいさつや返事をする。 ・「ありがとう」や「ごめんないさい」を言う。 ・自分の考えをみんなの前で話す。	・自分の意見や気持ちを分かりやすく表現する。 ・友達の気持ちを考え理解しようとする。 ・友達と協力して、学習や活動に取り組む。	・思いやりの気持ちを持ち、相手の立場に立って考え行動しようとする。 ・異年齢集団の活動に進んで参加し、役割と責任を果たそうとする。
情報活用能力	学ぶこと、働くこと、役割及びその多様な様子を幅広く活用して、自己の進路や生き方の選択に生かす。	【情報収集・探索能力】 進路や職業に関する様々な情報を収集・探索するとともに、自己の進路や生き方を考えていく能力	・身近で働く人々の様子が分かり、興味・関心をもつ。	・いろいろな職業や生き方があることが分かる。 ・わからないことを、図書などで調べたり、質問したりする。	・身近な産業・職業の様子やその変化が分かる。 ・自分に必要な情報を探す。 ・気付いたこと、分かったことや個人・グループでまとめたことを発表する。
		【職業理解能力】 様々な体験等を通して学校で学ぶことと社会・職業生活との関連や、今しなければならぬことなどを理解していく能力	・係や当番の活動に取り組む、それらの大切さが分かる。	・係や当番活動に積極的にかかわる。 ・働くことの楽しさが分かる。	・施設・職場見学等を通して、働くことの大切さが分かる。 ・学んだり体験したりしたこと、生活や産業との関連を考える。
将来設計能力	夢や希望をもつべき将来の生活や社会を、現実を踏まえながら、自己の将来を設計する。	【役割把握・認識能力】 生活・仕事上の多様な役割や意義及びその関連等を理解し、自己の果たすべき役割等についての課題を深めていく能力	・家の手伝いや割り当てられた仕事・役割の必要性が分かる。	・互いの役割や役割分担の必要性が分かる。 ・日常生活や学習と将来の生き方との関係に気付く。	・社会生活にはいろいろな役割があることやその大切さが分かる。 ・仕事における役割の関連性や変化に気付く。
		【計画実行能力】 目標とすべき将来の生き方や進路を考え、それを実現するための進路計画を立て、実際の選択行動等で実行していく能力	・作業の準備や片づけをする。 ・決められた時間やきまりを守るうとする。	・将来の夢や希望を持つ。 ・計画作りの必要性に気付き、作業の手順が分かる。 ・学習等の計画を立てる。	・将来のことを考える大切さが分かる。 ・憧れとする職業を持ち、今、自分がしなければならないことを考える。
意思決定能力	自らの意思より責任を担うことを選択し、決断し、実行し、その過程で葛藤に積極的に取り組む。	【選択能力】 様々な選択肢について比較検討したり、葛藤を克服したりして、主体的に判断し、自らにふさわしい選択・決定を行っていく能力	・自分の好きなもの、大切なものをもつ。 ・学校でしてよいことと悪いことがあることが分かる。	・自分のやりたいこと、よいと思うことなどを考え、進んで取り組む。 ・してはいけないことが分かり、自制する。	・係活動などで自分のやりたい係、やれそうな係を選ぶ。 ・教師や保護者に自分の悩みや葛藤を話す。
		【課題解決能力】 意思決定に伴う責任を受け入れ、選択結果に適応するとともに、希望する進路の実現に向け、自ら課題を設定してその解決に取り組む能力	・自分のことは自分で行おうとする。	・自分の仕事に対して責任を感じ、最後までやり通そうとする。 ・自分の力で課題を解決しようとする。	・生活や学習上の課題を見つけ、自分の力で解決しようとする。 ・将来の夢や希望を持ち、実現を目指して努力しようとする。

中学校・高等学校の内容は省略

### イ 総合的な学習の時間を中心としてキャリア教育を推進する意義

小学校学習指導要領における総合的な学習の時間の目標は、以下のようになっている。

横断的、総合的な学習や探究的な学習を通して、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする。（下線、丸数字は研究者）

この総合的な学習の時間の目標から以下の進路発達にかかわる能力・態度の育成を図ることができると考える。

の探究的な学習の過程では、自分にとって意味や価値のある課題を設定するという課題解決能力、必要な情報を取り出したり集めたりする情報収集・探索能力、幅広い情報を整理・分析したり判断したりする選択能力、学んだことを自己と結び付ける職業理解能力の育成を図ることができると思う。

の自ら課題を見付けることは、問題と向き合って、自分で取り組むべき課題を見出すことであり、課題解決能力の育成につながると思う。

の総合的な学習の時間で身に付けていくことが求められる学び方やものの考え方には、見通しや計画の立て方、コミュニケーションのとり方、ふり返りや意思決定である。これらは、計画実行能力、コミュニケーション能力、意思決定能力にあてはまると考えられる。

の協同的に取り組む態度を育てることは、コミュニケーション能力の育成につながると思う。

の自己の生き方を考えるとは、学んだことを現在及び将来の自己の生き方につなげて考えることであり、職業理解能力の育成につながると思う。そして、他者の生き方を将来の姿と重ね合わせることによって、他者のよさを発見し、自分のよさを自覚するという自他の理解能力の育成につながると思う。

このように、総合的な学習の時間では、多くの進路発達にかかわる能力・態度を育成できる。また、「小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編」(以下「解説」と示す)では総合的な学習の時間は教科・領域等との関連を重視し、互いに補い合い、支え合うものとしている。「総合的な学習の時間を中心として」とは、進路発達にかかわる能力・態度の育成を目指して教科・領域等と関連を図ることである。進路発達にかかわる能力・態度の育成に向けて総合的な学習の時間と教科・領域等が補い合い、支え合うことによって総合的な学習の時間における進路発達にかかわる能力・態度の育成をより確かなものにする可以考虑。

以上のことから、総合的な学習の時間を中心として進路発達にかかわる能力・態度を育成することが可能であり、総合的な学習の時間を中心としてキャリア教育を推進することは意義があると考えられる。

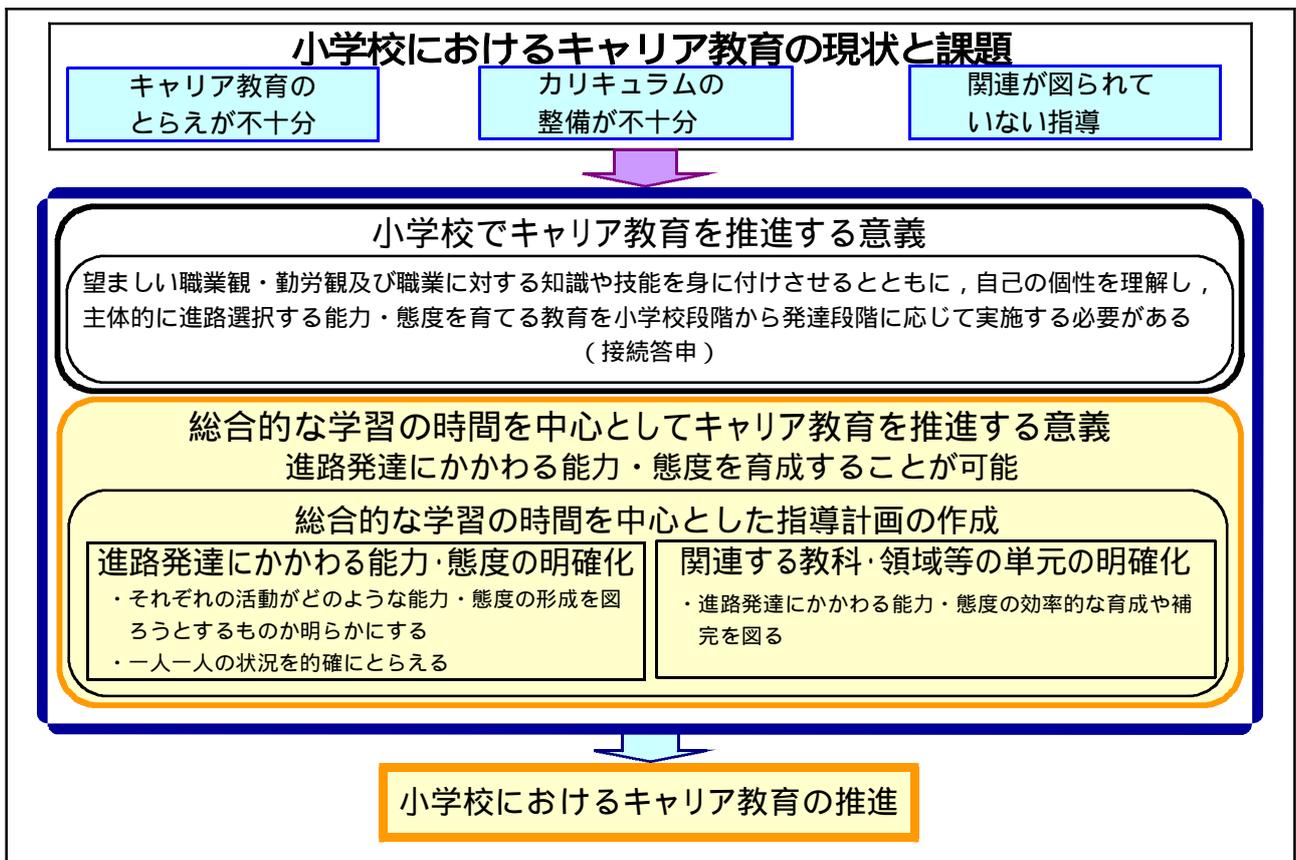
### (3) 総合的な学習の時間を中心とした指導計画の基本的な考え方

総合的な学習の時間を中心としたキャリア教育は、身に付けることが求められる能力・態度と関連する教科・領域等の単元が示された指導計画に基づいて推進される。その指導計画の作成に当たっては、育成することが望まれる進路発達にかかわる能力・態度と、その育成のために関連する教科・領域等の単元を明示し、具体的な実践につながるようしなければならない。

指導計画に進路発達にかかわる能力・態度を示すことで、それぞれの活動でどのような能力・態度の育成を図るのかを明らかにすることと、一人一人の状況を的確にとらえることができるようになると思う。また、関連する教科・領域等の単元を示すことによって進路発達にかかわる能力・態度の効率的な育成や補完を図ることができると思う。

### (4) 小学校におけるキャリア教育の推進に関する基本構想図

以上のことを踏まえ、小学校におけるキャリア教育の推進に関する基本構想図を5頁【図1】ように作成した。



【図1】小学校におけるキャリア教育の推進に関する基本構想図

## 2 総合的な学習の時間を中心とした指導計画の作成

### (1) 総合的な学習の時間を中心とした指導計画の作成までの手順について

進路発達にかかわる能力・態度を明らかにするために、キャリア教育学習プログラムを作成する。次に、学校教育目標とキャリア教育のつながりを明らかにするため、キャリア教育全体計画を作成する。そして、総合的な学習の時間を中心とした指導計画試案（以下「指導計画試案」と示す）に基づいて総合的な学習の時間を中心とした指導計画（以下「指導計画」と示す）を作成する。指導計画作成までの流れを【図2】に示す。



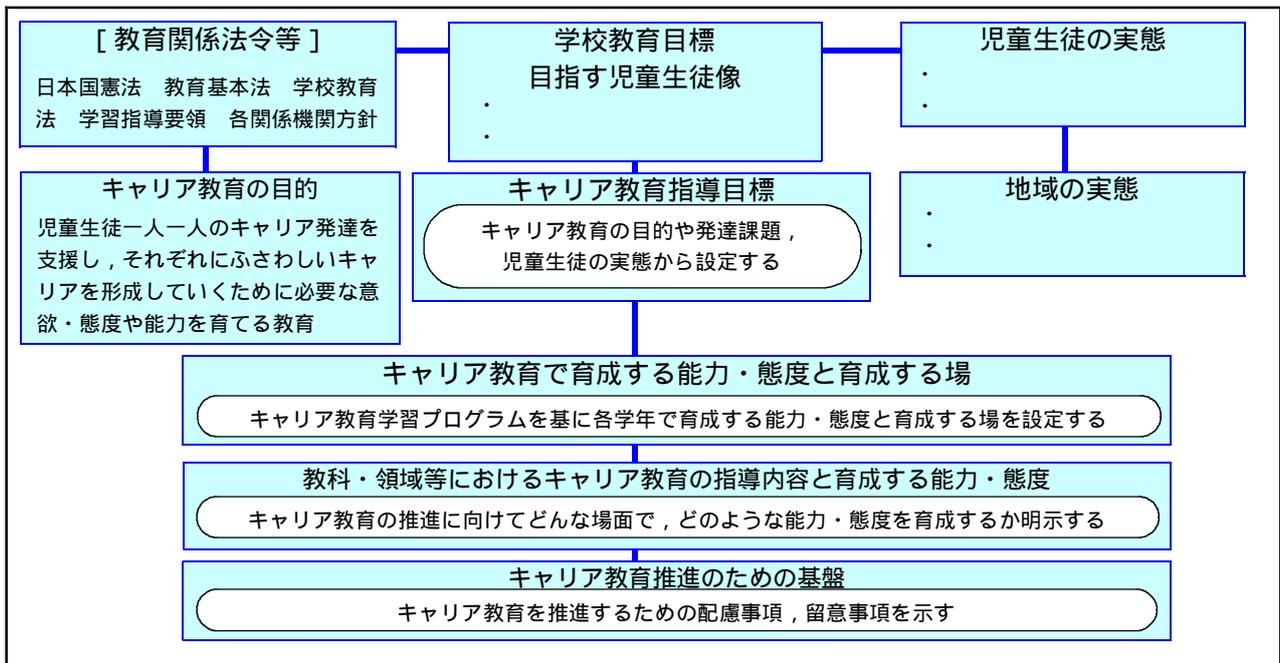
【図2】総合的な学習の時間を中心とした指導計画作成の流れ

### (2) キャリア教育学習プログラムの作成について

キャリア教育学習プログラムとは、児童生徒の発達段階に応じキャリア教育で育成する能力・態度を具体的に示したものであり、3頁【資料1】「枠組み(例)」を参考にして、地域や児童の実態等に応じて作成する。キャリア教育学習プログラムを補助資料に掲載する。

### (3) キャリア教育全体計画の作成について

キャリア教育の推進に向けてキャリア教育全体計画を作成する。キャリア教育全体計画とは、学校教育の中で、キャリア教育をどのような場で、どのように実施するかを示したものである。6頁【図3】はキャリア教育全体計画の例である。また、作成したキャリア教育全体計画を補助資料に掲載する。



【図3】キャリア教育全体計画

(4) 指導計画試案の作成について

ア 学習過程の段階について

7頁【資料2】が作成した指導計画試案である。「解説」では総合的な学習の時間は、探究的な学習をおすすめを目標としており、探究的な学習過程を、「課題設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」の四段階が発展的に繰り返していくものとしている。この探究的な学習過程には、様々な進路発達にかかわる能力・態度の育成につながる活動がある。以上のことから、指導計画試案を探究的な学習過程で作成した。

イ 進路発達にかかわる能力・態度の明確化について

進路発達にかかわる能力・態度を明らかにするために、探究的な学習過程の各段階で「育てようとする資質や能力及び態度」を明らかにする。「解説」では「育てようとする資質や能力及び態度」は、総合的な学習の時間の目標を実践にむけてより具体的に示したものであり、「学習方法に関すること」「自分自身に関すること」「他者や社会とのかかわりに関すること」の三つの視点を参考に、地域、学校、児童の実態に応じて作成するものとしている。また、特定の領域や対象によらない望ましい児童の成長の姿を一般的に表現をしている。そのため、様々な内容の単元に対応できると考える。「育てようとする資質や能力及び態度」には進路発達にかかわる能力・態度と重複する内容が多数ある。指導計画試案では、「育てようとする資質や能力及び態度」から進路発達にかかわる能力・態度を明らかにした。

ウ 指導計画試案に基づいた指導計画の作成の手順と留意点

総合的な学習の時間の学習過程を指導計画試案の探究的な学習過程に当てはめる。育てようとする資質や能力及び態度を指導計画に示す。育てようとする資質や能力及び態度には、進路発達にかかわる能力・態度につながるものが多くある。育てようとする資質や能力及び態度から明らかになった進路発達にかかわる能力・態度を指導計画に示す。

総合的な学習の時間で育成できる進路発達にかかわる能力・態度は多数ある。指導計画に示された進路発達にかかわる能力・態度を意識することで、従来の単元でもキャリア教育を推進できるものと考えられる。

### 3 指導計画試案に基づいた実践

指導計画試案に基づいて、第5学年総合的な学習の時間「おいしいリンゴを作り隊」という地域の人々の暮らしについて考える単元の指導計画を作成し、授業実践を行った。

8頁【資料3】は指導計画の抜粋である。指導計画は補助資料に掲載する。

#### 【資料2】指導計画試案

探究的な学習過程	活動内容	総合的な学習の時間で育てようとする資質や能力及び態度	進路発達にかかわる能力・態度
課題設定	体験活動などをおして、課題意識をもつ	学習対象や事象との出会いやかかわりから課題を設定する	【課題解決】 対象や事象との出会いから自らの意思で課題を設定する
情報の収集	必要な情報を取り出したり、収集したりする	解決の方法や手順を考え、見通しをもって計画を立てる	【計画実行】 課題を考え、解決にむけて計画を立てる
整理・分析	収集した情報を整理したり、分析したりして思考する	身に付けた知識や技能を活用し、課題の解決に必要な情報を収集する	【情報収集・探索】 必要な情報を収集・活用し、課題解決に生かす
		収集した情報を比較したり、関連付けたりして考える	【選択】 収集した情報を比較・検討して、主体的に判断し、必要な情報を自分の意思で選択し、課題解決に積極的に取り組む
		課題の解決にむけて行動する	【課題解決】 選択した情報をもとに自らの意思で設定した課題解決に取り組む
まとめ・表現	気付きや発見、自分の考えなどをまとめ、判断し、表現する	他者と協力して課題を解決する	【計画実行】 課題解決のための計画を、自らの意思の選択行動等で実行する
		相手や目的に応じて分かりやすくまとめ、表現する	【コミュニケーション】 話し合いや意見交換からコミュニケーションを図り、協力・共同して課題解決に取り組む中で自己の成長を果たす
		自らの生活のあり方を見直し、今、やらなければならないことを理解する	【役割把握・認識】 課題解決のための活動をおしりて役割や意義を理解し、取り組む中で自己の果たすべき役割について理解する
			【コミュニケーション】 思いやりの立場に立って、自分の考えを相手に分かりやすく表現する
			【他の理解】 友達のよいところを認め、自分のよいところを見つめることをとおしてお互いに認め合うことを大切にする
			【職業理解】 学んだことを振り返り、生活の関連を考えて、今後、自分がやらなければならないことを理解する

#### (1) 指導計画に基づいた授業実践1（摘果体験）

##### ア 実践のねらい

総合的な学習の時間の指導において、進路発達にかかわる能力・態度の育成場面を、体験活動とふり返り活動に位置付けた指導の分析から、指導計画について検討する。

##### イ 検証方法

- (ア) 児童の体験活動の様子とふり返りの記述内容の分析・考察
- (イ) 参観者の聞き取り調査の分析・考察

【資料3】第5学年総合的な学習の時間「おいしいリンゴを作り隊」指導計画の抜粋

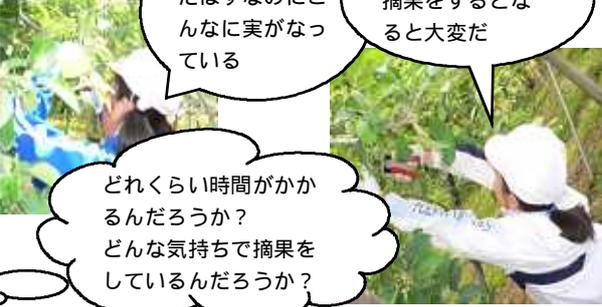
第5学年総合的な学習の時間「おいしいリンゴを作り隊」指導計画						
目標「リンゴの木のオーナーとしてリンゴ栽培の体験活動をとおして、地域の人々の生活を考え、自分のやるべきことを考える」 【キャリア教育の視点】 リンゴ栽培の体験活動をとおして、働く中で工夫したり努力したりすることの大切さや、働くことの喜びを知る リンゴ農家のかかわりから自分のやるべきことを考える						
月	探究的な学習過程	段階	主な学習活動 時数	総合的な学習の時間の評価規準	育てようとする資質や能力及び態度	関連する教科・領域等
4	課題	みつける (2)	課題を設定する 2時間 ・リンゴの木のオーナーの意義を理解する ・活動の概要を理解する ・単元の課題を設定する	[課題設定能力] リンゴに興味をもち、リンゴ作りについて課題をもつことができる [発表力・表現力] リンゴ作りについての課題をみんなに聞きやすい声で発表できる [学習への主体的・創造的態度] リンゴ作りについて課題を見付けようとする	農家の工夫がなされた様々なリンゴとの出会いやオーナーの理解をとおして、リンゴのオーナーとしての意欲をもち、課題を設定する 自分の意思で課題を設定することが【課題解決能力】の育成につながる	国語「お願いの手紙、お礼の手紙」 【コミュニケーション能力】 お礼の手紙の書き方 社会「農業のさかんな地域をたずねて」 【情報収集・活用能力】 稲作農家の願いや工夫、苦労
			オーナーとしての活動に見通しをもつためにリンゴの成長と栽培方法を調べる 4時間	[課題設定能力] 自分の活動の見通しをもち、その時間の活動の課題を決めることができる [課題解決能力] 自分の課題について、問題解決の手がかりがどこにあるかを考え、調べるための計画を立てることができる [発表力・表現力] 自分が調べたことを発表できる [学習への主体的・創造的態度] 友達の考えを参考にしながら課題解決のための準備をしようとする	おいしいリンゴを作るまでの方法や手順を調べ、課題解決のための見通しをもって計画を立てる 課題解決にむけて努力するための計画を立てることが【計画実行能力】の育成につながる	↑ 関連する教科・領域等で育成する進路発達にかかわる能力・態度と内容を記載する
6	情報の収集	ためす (38)	摘果体験(授業実践1) 4時間 ・栄養が拡散しないように、花を摘む	[課題設定能力] 自分の活動の見通しをもち、その時間の活動の課題を決めることができる [課題解決能力] 手がかりをもとに課題解決に取り組むことができる	体験活動をとおして課題解決のための情報を収集する 課題解決にむけて情報を収集し、活用して考えることが【情報収集・活用能力】の育成につながる	
8			絵付け体験(授業実践2) 7時間 ・付加価値を付けるための工夫について考える ・リンゴに貼るシールを作成する ・リンゴにシールを貼る	[発表力・表現力] 自分が感じたこと、考えたことを発表できる [学習への主体的・創造的態度] 課題解決に積極的に取り組み、疑問に思ったことを質問しようとする	↑ ゴシック体は総合的な学習の時間に育成する進路発達にかかわる能力・態度を表す	道徳「とり返しのつかない一日」 【役割把握・認識能力】 自分の役割を自覚し、責任を果たそうとする心情
9						

ウ 実践の期日と対象

平成20年6月11日 5, 6校時 花巻市立浮田小学校 第5学年 9名

エ 実践の概要

本実践の指導展開案を補助資料に掲載する。摘果とは結実量を調節し、果実の大きさをそろえるために果実を摘む活動である。指導計画では、「ためす」段階であり、指導計画試案の「情報の収集」の段階に相当する。「ためす」段階で育成する進路発達にかかわる能力・態度は「情報収集・活用能力」である。

学習活動と進路発達にかかわる能力・態度を育成するための手だて( )	活動の様子
<p>摘花の体験活動を想起し、本時の課題を設定する</p> <p>リンゴの様子を観察する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・摘花したにもかかわらず、たくさん結実していることを理解する</li> </ul> <p>摘果の必要性和体験活動の説明を聞き、活動内容を理解する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・摘花よりも確実に結実量を調節できる方法であることを理解し、摘果の方法がわかる</li> </ul> <p>摘果の体験活動に取り組む</p> <p>体験活動で摘果の方法やリンゴ農家の様子について関心をもつことができるような声かけを行う</p> <p>体験活動のふり返しを行う</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ふり返しで「新しく発見したこと」「気が付いたこと」「分かったこと」「感想」を記述し、発表する</li> </ul> <p>リンゴ作りについての発表を取り上げ、分かったことや感じたことを交流し、リンゴ作りやリンゴ農家の理解に必要な情報を収集する</p>	 <p>たくさん摘花したけど、どのくらい実がなっているだろう？ 全部の木の摘果をするのはどのくらい大変だろう？</p> <p>いっぱい摘花したはずなのにこんなに実がなっている</p> <p>りんご園全部の摘果をするとなると大変だ</p> <p>どれくらい時間がかかるんだろうか？ どんな気持ちで摘果をしているんだろうか？</p>

## オ 分析と考察

### (ア) 体験活動の様子と児童のふり返りの記述の結果に基づいた分析・考察

体験活動中は摘果する実の判断基準や作業の大変さや、手触りや大きさ・色や結実量などのリンゴの様子について聞き取る様子が見られた。

体験活動後に「新しく発見したこと」「気が付いたこと」「分かったこと」「感想」など感じたことや気付いたことという観点でふり返りの記述を行った。9頁【表1】は授業実践1, 2の児童のふり返りの記述内容である。

授業実践1の児童のふり返しには、摘果の方法や必要性、葉の役割、虫媒の必要性の情報収集・活用能力に関する記述が見られた。これは、体験活動の際に、リンゴ作りについて理解するという視点をもたせたことと、体験活動中に、この視点から声かけを行ったことにより、摘果の作業の内容やリンゴ農家の様子について理解しようとする姿勢をもたせることできたと考ええる。

### (イ) 参観者の聞き取り調査の結果に基づいた分析・考察

参観者に進路発達にかかわる能力・態度を位置付けた指導について聞き取り調査を行い、以下のことが指摘された。

進路発達にかかわる能力・態度を位置付けたことにより、従来の総合的な学習の時間との違いが明確になったこと

指導計画に進路発達にかかわる能力・態度や関連する教科・領域等が位置付けられているので今後、キャリア教育を推進する上で使いやすいこと

総合的な学習の時間で身に付ける資質や能力及び態度を優先して、キャリア教育を進めていかなければならないこと

従来の授業や活動の様子には大きな違いは見られないが、児童の意識は違っていたと思われること

これらの指摘から、意識を少し変えることで、授業の意味付けが変わるということが示唆された。また、実際に授業を行ってみて、進路発達にかかわる能力・態度を意識して授業するだけで、従来の授業との違いを感じることができた。これは、キャリア教育は新たに特別な活

動をするのではなくこれまでの教育活動をとらえなおし，取り組みの視点を変えることで効果が期待できる（2004，三村）ということを示唆するものである。

以上のことから，キャリア教育を進めるに当たって，進路発達にかかわる能力・態度を示すことが有効であるということが確認できた。

【表1】授業実践1，2の児童のふり返り

	授業実践1(摘果体験)	授業実践2(絵付け体験シール作成)	授業実践2(絵付け体験シール貼り)
A 女	BさんとFさんが，たくさん実が付いているところやみんながなかなか気がつかないようなところの実をいっしょけんめいさがしてとっていたのですごいなと思いました。	思ったより，シールを切るのがむずかしかかったけど，お客さんのことを思いながら切っていくと楽しくて，もっと切りたいと思った。	シールを作るのも大変だけど，シールをはるのも時間がとてもかかることがわかりました。大変だったけど，お客さんがよるこんで買ってくれるといいなあとと思いました。
B 女	今日やってみてわかったことは，小さい実や50cmくらいの枝に一個だけ実を残してとることがわかりました。	私は，この活動に取り組んでみて，消費者に，思いが伝わる絵を書かなければだめなんだなということがわかりました。	私は，リンゴにシールを貼るときに，お客さんがにこにこして買ってくれることを考えながら，はりました。あと，リンゴにシールをはるのが大変でした。
C 女	リンゴの実をとるとき，形がわるいものや小さいものをとる。実と実が近いくときもとる。	最初は簡単だと思っていたけど，実際にやってみたらボロボロになった。お客さんが買ってくれるとうれしいと思った。	リンゴにシールをはるのはむずかしかかったけど，お客さんがえがおで買ってくれることが思いうかんだので，できるだけ空気が入らないようにして，しわがなくなるように上手にはれてよかったです。
D 女	リンゴの葉は，日光をあびて栄養を作り，リンゴの実に栄養をあたえるということがわかりました。	シール作りをして思ったことは，最初は簡単そうだったが，思ったよりむずかしかかった。お客さんがよるこんでくれる絵はどんなものかと考えて書いたら，お客さんの気持ちもわかってきたからよかった。	消費者が喜んでくれるように思いをこめてシールをはることができたし，リンゴを作るときの生産者の気持ちになってシールをはることができた。
E 男	G君は積極的にきやたつを動かし，実をとっていたのでよかったです。	リンゴを売りに行ったときお年寄りの人たちが買ってくれるのではないかと思いました。消費者が安心して買うことができるようにシールを作ることが大変でした。	リンゴにシールをはるの時間はかかって大変だと思った。あと，リンゴ農家はお客さんが安心して買ってもらえるように苦労しているんだなあと思いました。
F 女	リンゴの実は，八手がちゃんと働いてくれないとできない。今日はみんな，しっかり実をとっていたし，話をよく聞いていた。	シール作りは最初はかんたんだと思っていたけど，じっさいにやったら，上手に切れなくてたいへんだった。	シールをはるの思ったよりむずかしくてはるときにやぶれたり，手にくっついてくしゃくしゃになったり，しわができてたりして大変でした。
G 男	葉は，何のためにあるのかなど思っていたけど，太陽の光をうけて栄養を作り，実における役目をしていることがわかった。I君が自分がきやたつにのれないときに，のっている人に実のある所を教えていた。	シール作りをして，絵のデザインを考えたり，切り取ることがむずかしかったです。よく売れるリンゴを作るには，今日やったシール作りも大切なんだなあと思いました。	リンゴにシールを貼ることがとてもむずかしかったです。しわがつかないように気をつけたけど，たくさんついてしまいました。でもリンゴ農家の人たちは売れるリンゴを作るためにこんなに大変なことをしているんだなあと思いました。
H 女	花をたくさんとったつもりでも，まだ一つのえだに六つくらいの実が付いていることがありました。花は，手でとったけれど，今日ははさみでとりました。手で実をとったら，全部の実がとれてしまうことがわかりました。	思ったより，シールを切ることがむずかしかったです。わたしはもっと切ることにはかんたんだと思っていたのでびっくりしました。	感じたことはシールをはることはとてもむずかしかったことです。気がついたことは，日光が当たっていない所だけが緑色になっていました。日光が当たっているところはもう赤くなっていました。
I 男	みんな高いところやひくいところの実をいっしょけんめいはさみで切っていてがんばっているなと思いました。	お客さんがリンゴを買うときの様子を覚えてシールを作るのは大変でした。	リンゴにはるシールを大きくしたほうが良いと思いました。シールをはるとき，空気を入れないようにするのはとても大変だと思いました。

(ウ) 本実践における分析・考察のまとめ

本実践では，体験活動の際に児童にリンゴ作りについて理解するという視点をもたせた。その視点から声がけとふり返りを行うという手だてをとったことにより，進路発達にかかわる能力・態度を示した指導計画やその能力・態度を位置付けた指導が有効になったと考えられる。

(2) 指導計画に基づいた授業実践2(絵付け体験)

ア 実践のねらい

総合的な学習の時間の指導において，進路発達にかかわる能力・態度の育成に向けて教科・領域等との関連を位置付けた指導の分析から指導計画について検討する。

イ 検証方法

(ア) 体験活動の様子と児童のふり返りの記述内容の分析・考察

(イ) 参観者の聞き取り調査の分析・考察

ウ 実践の期日と対象

対 象	日 時	内 容
花巻市立浮田小学校 第5学年 9名	平成20年8月29日 3, 4, 5校時	シール作成
	平成20年9月10日 3, 4校時	シール貼り
	平成20年9月11日 5校時	シール貼りの事後指導

エ 実践の概要

指導展開案は補助資料に掲載する。リンゴに付加価値を付けるために絵付きリンゴを作成する。リンゴの光が当たる面に図柄や文字を切り抜いたシールを貼る。シールで覆われた部分と覆われていない部分の色の違いが生じ、絵付きリンゴができる。

意欲付けのために国語「千年の釘にいどむ」から職人としての誇りや心意気を想起させる。自分たちが作ったリンゴを買ってもらうためにできる活動を考えさせる。社会「これからの食料生産」で学習した食料生産の問題点と解決方法からどのような絵柄にするか考えさせる。そして、作成したシールをリンゴに貼る。

指導計画では、この体験活動は「ためす」段階である。「ためす」段階で育成する進路発達にかかわる能力・態度は「情報収集・活用能力」である。

学習活動と教科・領域等との関連( )	活動の様子
<p>8月29日 シール作成</p> <p>リンゴのオーナーとして体験活動に対する意欲を高める</p> <p>国語「千年の釘にいどむ」の白鷹さんの仕事の様子を想起する</p> <p>お客さんを買ってもらえるリンゴを作るために自分たちはどんなことができるかを考える</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・付加価値を付ける活動として、1年生の生活科の「リンゴたんけん」からリンゴの絵付けを想起する</li> </ul> <p>誰のための絵付けか考える</p> <p>社会「これからの食料生産」で消費者が望んでいることを考える</p> <p>課題を設定する</p> <p>シール作成の方法を聞き、活動内容を理解する</p> <p>シールの絵柄を考える</p> <p>消費者が望んでいることやリンゴへこめられた思い、生産者の消費者に対する思いを考える(社会「これからの食料生産」)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「安全」「安心」であることを伝える絵柄を考える</li> <li>・リンゴ作りにこめられた思いを伝える絵柄を考える</li> <li>・消費者が喜ぶような絵柄を考える</li> </ul>	 <p>白鷹さんに負けないようにリンゴの木のオーナーとしてよるこんで買ってもらえるような絵を考えよう</p> <p>白鷹さんはどんな気持ちで釘を作っていたんだろう？</p> <p>安心や安全が伝わるような絵ってなんだ？</p> <p>消費者はどんなリンゴを買いたいんだろう？消費者にどんなことを伝える絵にすればいいのだろうか？</p>

学習活動と教科・領域等との関連( )	活動の様子
9月10日 シール貼り 9月11日 事後指導 本時の活動内容を確認する 何のために、誰のために絵付けをするのか考える(社会「これからの食料生産」) 課題を設定する シール貼りの方法を聞き、活動内容を理解する シールを貼る 体験活動のふり返しを行う ・「新しく発見したこと」「気が付いたこと」「分かったこと」「感想」を記述し、発表する	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: 150px;">             誰のことを考えてシールを貼る？           </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: 150px;">             お客さんが喜ぶようにしわにならないように           </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;">   </div> <div style="text-align: right; margin-top: 10px;">  <p style="writing-mode: vertical-rl; font-size: small;">シール付きリンゴ</p> </div> <p style="text-align: center; margin-top: 10px;">真ん中から端に向かって</p>

## オ 分析と考察

### (ア) 体験活動の様子と児童のふり返りの記述の結果に基づいた分析・考察

シール作成の体験活動において児童は、シールの図柄を縁起物という理由での干支や、幸せを祈って四つ葉のクローバーやハートマーク、お客さんに笑いをよぶように「笑」、明るい気持ちになれるように太陽、心を込めて作ったという意味で「心」などを考えた。また、食料生産の問題点から「安全」「安心」を消費者に伝えることができるように生産者を明確にするという理由で、自分の名前や校名を入れたシールを作成した。

体験活動後に「新しく発見したこと」「気が付いたこと」「分かったこと」「感想」など感じたことや気付いたことという観点でふり返りの記述を行った。ふり返しには情報収集・活用能力に関するシール作成の大変さについての記述や、お客さんに対する願いや思いとやりがい、絵付けの意義や絵柄の意味などの職業理解能力に関する記述も見られた。また、「お客さんのことを考えながら切っていくと楽しくて～(以下省略)」「お客さんが喜んでくれる絵はどんなものか～(以下省略)」「お客さんがリンゴを買うときの気持ちを考えて～(以下省略)」「消費者が安心して買えるように～(以下省略)」「お客さんが笑顔で買ってくれる顔が浮かんだので～(以下省略)」「消費者が喜んでくれるように思いを込めて～(以下省略)」「お客さんが喜んで買ってくれるといい」等の消費者を意識した記述が見られた。このように、体験活動の内容や方法だけでなく、リンゴ農家(生産者)の立場に立った思いや願いにかかわる記述が増えた。

社会「これからの食料生産」を学習した際に、消費者の立場で食料生産の問題点を考え、生産者の立場で食料生産の問題点の解決方法を考えた。このことが、消費者を意識した生産者の立場で体験活動につながっていったと考えられる。

シール貼りの体験活動では、シール貼りに適したリンゴの判断基準について質問したり、実の周囲の葉と日当たりからシールを貼るリンゴを選択したりする様子が見られた。また、シール作成と同様に、児童は消費者を考えたシール貼りという視点をもって取り組むことができた。シール作成の大変さやお客さんに対する願いや思い、リンゴ農家の気持ちや苦労に関する記述も見られた。

リンゴを栽培する方法と工夫や農家の生活についての情報を収集する「情報収集・活用能力」だけでなく体験や見学等をとおして、働くことの大切さや苦労などが分かる「職業理解能力」の育成まで図ることができた。これは、「これからの食料生産」で学習した消費者の立場から考え

た食料生産の問題点や生産者の立場から考えた問題の解決方法を意識して取り組ませることができたためと考える。

(イ) 参観者の聞き取り調査の結果に基づいた分析・考察

参観者に教科・領域等の関連について聞き取り調査を行った。このことから以下のことが明らかになった。

導入の段階で社会で学習したことから消費者という相手意識をもたせて活動することができていたこと

国語，社会や生活科で学習したことが生かされていたこと

国語，社会で学習したことが情報収集・活用能力の育成に生かされていたこと

関連する教科・領域等が示された指導計画になっていること

「これからの食料生産」で「情報収集・活用能力」や「職業理解能力」の育成を図って指導を行うことができたため，本体験活動では児童にシール作成，シール貼りの内容や農家の様子だけでなく消費者を意識して指導することができた。教科・領域等との関連を図った指導が進路発達にかかわる能力・態度の育成に効果的であったと考えられる。

(ウ) 本実践のまとめ

社会「これからの食料生産」で学習した食料生産の問題点や解決の取り組みを想起することで，自分の立場を明らかにして相手を意識した活動を行うことができた。このことから，教科・領域等と関連を図った指導は有効であることが示唆された。指導計画では，題材・内容・活動が共通する教科・領域等の単元と関連を図ったが，この方法が有効であると考えられる。

以上のことから，教科・領域等と関連を図った指導計画は有効であったと考えられる。

4 小学校におけるキャリア教育の推進に関する研究のまとめ

指導計画試案に基づいて指導計画を作成し，授業実践の分析と考察をとおして明らかになった成果と課題を以下に示す。

(1) 成果

ア 指導計画試案に基づいて指導計画に進路発達にかかわる能力・態度を位置付けたことによって，進路発達にかかわる能力・態度を意識して授業することができた。

イ 題材・内容・活動から関連する教科・領域等を明らかにし，指導計画に位置付けた。教科・領域等と関連を図ることによって進路発達にかかわる能力・態度を効率的に育成することができた。

ウ 指導計画試案に基づいて，進路発達にかかわる能力・態度を明らかにし授業実践を行うことができた。指導計画試案は指導計画だけでなく授業においても有効であった。

(2) 課題

指導計画は進路発達にかかわる能力・態度が育成されているか，育成されていないのであればその進路発達にかかわる能力・態度は適切か，進路発達にかかわる能力・態度の基となっている育てようとする資質や能力及び態度は適切か，その資質や能力及び態度を育てる学習活動は適切かというポイントに基づいて修正・改善を図る必要がある。

## 研究のまとめ

### 1 研究のまとめ

本研究は、総合的な学習の時間を中心とした指導計画を作成し、小学校におけるキャリア教育の推進に資することを旨としたものである。研究の成果を以下のようにまとめる。

#### (1) 小学校におけるキャリア教育の推進に関する基本構想の立案

小学校におけるキャリア教育推進の意義、総合的な学習の時間を中心としてキャリア教育を推進する意義を明らかにし、基本構想を立案することができた。基本構想に基づいて、進路発達にかかわる能力・態度と関連する教科・領域等の視点をもつことができた。

#### (2) 総合的な学習の時間を中心とした指導計画の作成

総合的な学習の時間の探究的な学習過程に基づき、育てようとする資質や能力及び態度から進路発達にかかわる能力・態度を明らかにすることができた。探究的な学習過程に進路発達にかかわる能力・態度を位置付けた指導計画試案を作成することができた。この指導計画試案は、単元の指導計画を作成するためのものであるが、総合的な学習の時間や教科等の授業にも転用できると考える。この指導計画試案に基づいて進路発達にかかわる能力・態度と関連する教科・領域等を示した総合的な学習の時間を中心とした指導計画を作成することができた。

総合的な学習の時間で育成できる進路発達にかかわる能力・態度は多数ある。しかし、総合的な学習の時間を中心とした指導計画を作成し、実践することによって、関連する教科・領域等とともに進路発達にかかわる能力・態度の育成を着実に図ることができた。これらのことが、関連が図られた指導の実施や指導計画の整備、キャリア教育の理解につながった。

#### (3) 指導計画に基づいた授業実践及び実践結果の分析と考察

指導計画に基づいて指導実践を行い、その分析と実践をとおして進路発達にかかわる能力・態度を明確にして教科・領域等と関連を図った指導がキャリア教育の理解や関連性のある指導に有効であることが確認できた。

#### (4) 小学校におけるキャリア教育の推進に関する研究のまとめ

授業実践の分析・考察から明らかになったことをまとめ、指導計画の妥当性を認めることができた。また、指導計画試案と指導計画を提示することにより小学校キャリア教育の推進に資することができた。

### 2 今後の課題

本研究で作成した指導計画試案に基づいて、様々な内容の単元で総合的な学習の時間を中心とした指導計画を作成することが小学校におけるキャリア教育の推進につながると考える。

## [おわりに]

長期研修の機会を与えていただきました関係諸機関の各位並びに所属校の先生方と児童の皆さんに心から感謝申し上げます、結びの言葉といたします。

## 【引用文献】

国立教育政策研究所生徒指導研究センター（2002）,『児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進に関する調査研究報告書』,p.46

齊藤義宏・菅原桂吾・佐藤亥吉（2008）,『小・中学校におけるキャリア教育の推進に関する研究』岩手県立総合教育センター,p.3

中央教育審議会（1999）,『初等中等教育と高等教育との接続の改善について（答申）』

栃木県立総合教育センター（2007）,『「生きる力」を育むキャリア教育』,p.10

三村隆男（2004）,『キャリア教育入門』,実業之日本,p.168

三村隆男（2005）,『キャリア教育が小学校を変える！』,実業之日本社,p.26 p.104

文部科学省（2004）,『キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書 ～児童生徒一人一人の勤労観,職業観を育てるために～』,p.7

## 【参考文献】

国立教育政策研究所生徒指導研究センター（2002）,『児童生徒の職業観・勤労観を育む教育の推進について（調査研究報告書）』

国立教育政策研究所生徒指導研究センター（2008）,『キャリア教育体験活動事例集（第1分冊） - 家庭や地域との連携・協力 - 』

齊藤義宏（2003）,『教科と関連を図る小・中学校総合的な学習の時間の改善に関する研究 - 総合的な学習単元カリキュラムのリフォームをとおして - 』,岩手県立総合教育センター

前川岳詩（2007）,『将来を見つめ自らの生き方を考える力を育てる小学校キャリア教育の推進に関する研究 - 進路発達にかかわる諸能力の育成を軸とした特別活動を中心として - 』,岩手県立総合教育センター

三村隆男（2004）,『はじめる小学校キャリア教育』,実業之日本社

三村隆男（2008）,『小学校キャリア教育実践講座』,(財)日本進路指導協会

文部科学省（2006）,『小学校・中学校・高等学校 キャリア教育推進の手引き - 児童生徒一人一人の勤労観,職業観を育てるために - 』